



看護問題対策委員会ニュース

全日本赤十字労働組合連合会 NO.11-02 11.9.1

「風が変わってきた。看護師の労働環境の改善は、看護師確保でも重要と認識している」～本社看護部長

全日赤の看護対策委員と地方協女性部長と合同で、8月29日、本社看護部との労使協議会をおこない、夜勤をはじめ職場の現状や目指すべき看護について話し合いました。

6月17日に厚生労働省が出した、5局長連名の「看護師等の『雇用の質』の向上のための取組について」について、本社看護部長は、「厚労省のプロジェクトから、全国の病院の看護部長の代表として趣旨の説明を受けた。看護協会とも話し合いをおこなった。具体的にはこれからだが、基本的には通知の内容もふくめ、みなさんからもご意見を聞いて進めていきたい。労働環境としても、看護師確保でも重要と認識ある」と答えました。また、このプロジェクト報告で、厚労省内の医政局（通常、看護問題は医政局が担当）だけでなく、労働基準局、職業安定局、雇用均等・児童家庭局、保健局の5局長が名を連ねたことは、厚労省発足以来の画期的なことで、「看護師の労働環境の改善に向け、風が変わってきた」と、認識をしていることが分かりました。



書籍紹介

看護師等の『雇用の質』の向上に向けた取組の内容とは、

交替制夜勤や厳しい労働環境に置かれている人も多く、必要な人材の確保を図りながら、看護師等が健康で安心して働き続けられる環境を整備し、「雇用の質」を高めていくことが喫緊の課題。また、看護業務が「就職先として選ばれ、健康で生きがいを持って能力を発揮し続けられる職業」となることを進めるため、労働時間の管理などの「職場づくり」、キャリア形成と資質の向上などの「人づくり」、地域における推進体制など「ネットワークづくり」にわけ、具体的な取組をするよう指示をしています。

職場流産

雇用破壊後の妊娠・出産・育児

小林美希 著

岩波書店（256 ページ 1900 円+税）

過労や悪質な労働環境によって起きる「職場流産」ともいえる悲劇。なぜ悲劇は繰り返されるのか。働く女性が迎える妊娠・出産・育児といった局面で、セーフティネットはしっかり機能しているのか。彼女たちが抱える社会的リスクを、当事者の切実な声から描きだす渾身のルポルタージュ。

* 8月25日に出版されたばかり。医療の現状や日赤医療センターのスーパー周産期も紹介。ぜひ、読んでみてくださいね。